

4

第 4 章 基本計画の策定

(1) 景観・施設整備における基本的な考え方

第2章、第3章の検討を踏まえ、本章では、秋吉台地域における景観及び施設整備の戦略を定める基本計画についての検討内容を記載する。

秋吉台地域の景観、及び対象施設における整備を進める上での基本的な考え方について、以下に記す。

選択と集中

観光客数の減少傾向が続く中、観光振興を現実のものとするためには、これまでの分析結果を踏まえ、狙うべきターゲットを的確に定め、訴求効果のあるコンセプトのもと、ソフト面、ハード面双方から施策を講じることが望ましい。

また、ハード面では22施設89棟もの市保有施設が、約2,000haと広域な範囲にわたり点在している。人口減少社会においては、限られた予算・時間・労働力の中で、観光振興へ最大限の効果が見込める施設やエリアを見定め、適切なハード整備を行っていくことが重要である。

来訪者へのおもてなし

観光客や地元住民等、全ての訪れる方の目線に立ち、「分かりやすく」「使いやすく」「安全であり」「魅力的に感じる」整備を行う。特に観光ルートの動線整備においては、案内サインの適切な再配置だけでなく、舗装や植栽、工作物や建築物整備による空間的アプローチによる、案内サインのみに頼らない総合的な分かりやすさが必要である。

また、対象地域内には、ハード面で歩行者の安全性が損なわれる箇所が多々存在するため、歩行者空間の確保等の改善策を検討する。

さらに、来訪者をがっかりさせない、また訪れたいような魅力的な景観・施設整備を目指し、検討を行う。

一体感の醸成

観光地として、地域全体での一体感が感じられることは、観光客への満足度向上につながる。秋吉台地域は、広域かつ主要施設が点在しているため、一体感の醸成には、地域振興の観点からもより丁寧な検討が必要である。

現状、ロゴマークやポスター・チラシやのぼり等の広告物、案内サインから建築物まで、それぞれ独自のデザインや形式で製作され存在している。ソフト的要素からハード的要素まで、来訪者の目に触れるものに対し、統一的なコンセプトのもと、検討を行う。



初夏の秋吉台

(2) 観光シミュレーション

1. 観光シミュレーションの目的と注意点

本シミュレーションは、今後の秋吉台・秋芳洞地域の新たな観光ブランディング方針とソフト/ハードの開発の示唆を得るために制作しものである。これらはあくまで今後の検討を目的として仮の例示として作られたもので、決して予定された構想ではない。

このようなシミュレーションを行うことによって、一連の観光体験を俯瞰的にかつ具体的にみていくことができる。これにより、到着から出発まで、複数の観光スポットの連なりを観光客の目線で検討し、地域全体の観光ブランディングにつながる、個別観光スポットの開発方針を検討することが可能となる。

本シミュレーションでは、ターゲットとした 3 つの観光クラスターそれぞれに対応する 3 つの観光シミュレーションを作成した。定量調査から得られた各クラスターの特徴を元に、一連の観光体験全体のコンセプト、各スポットにおける観光体験、周遊ルートとタイムスケジュールをシミュレーションした。以下に各ルートの概要を、次頁以降にその詳細を記す。

■ 自然と積極的に関わる、冒険アクティビティ体験重視型ルートの概要



ターゲットクラスター：アクティブ体験志向

意図：非日常的で刺激的なアクティビティを複数人で種類多く楽しみたい、というターゲットの特徴に着目し、三洞のケビン等、広大な自然の中での冒険アクティビティにフォーカスしたルートを企画。

■ 楽しみながら土地の歴史と文化に親しむ、学習体験重視型ルートの概要



ターゲットクラスター：文化体験・学習志向

意図：自分の普段の日常生活にも活かせる学びや地元の人との交流を得たい、というターゲットの特徴に着目し、弁天池や酒蔵、秋吉台国際芸術村等での様々な学習・交流体験にフォーカスしたルートを企画。

■ ゆっくりのんびり、シンプルに心ゆくまで自然満喫型ルートの概要



ターゲットクラスター：自然満喫志向

意図：雄大な自然への関心が非常に高い、というターゲットの特徴に着目し、帰り水の見学や洞窟の暗闇体験、龍護峰の雲海等、異なる視点と切り口で秋吉台エリアの様々な自然を体験することにフォーカスしたルートを企画。

2. 観光シミュレーション



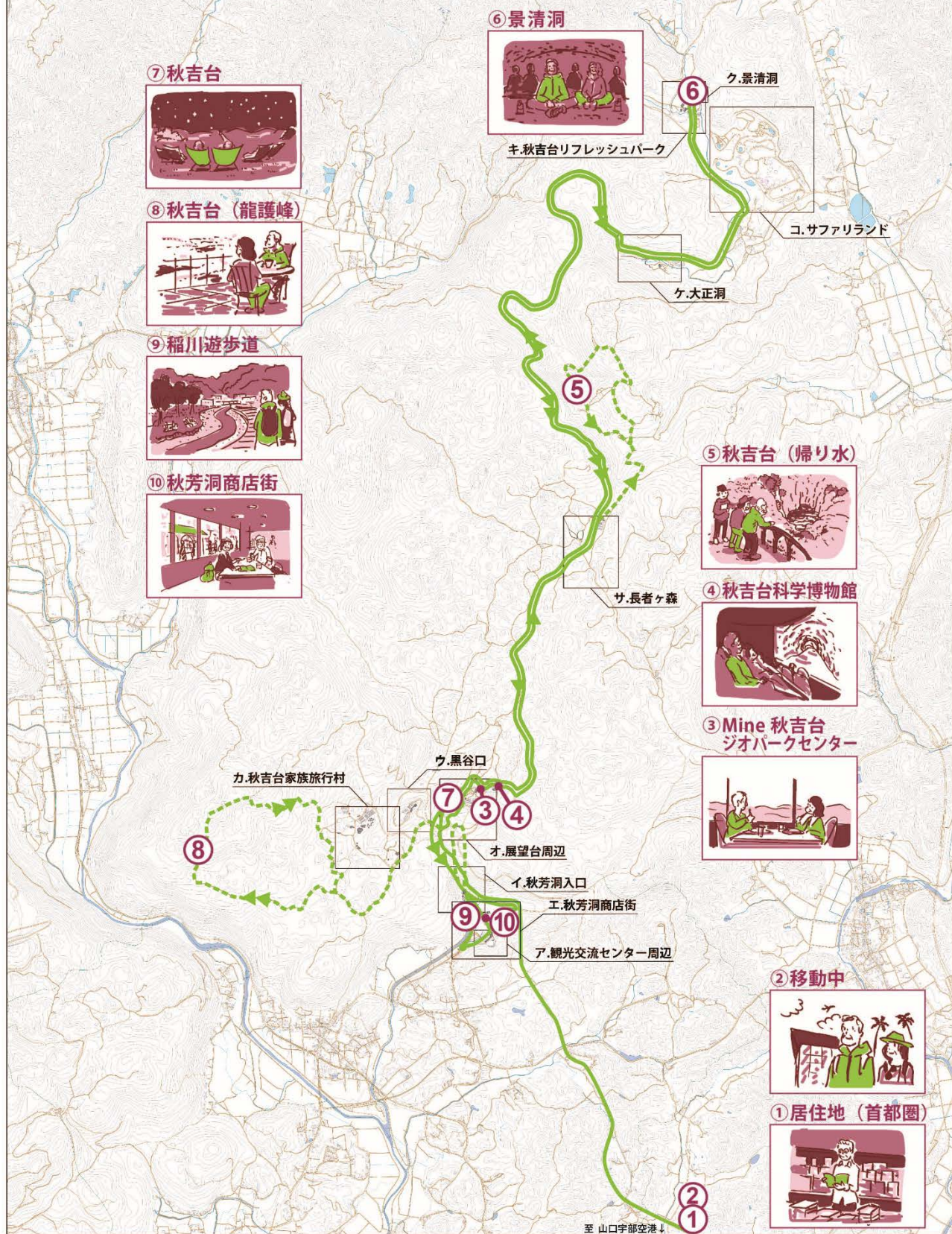
出典：国土交通省GISデータ

1:30,000

楽しみながら土地の歴史と文化に親しむ、学習体験重視型



ゆるゆるのんびり、シンプルに心行くまで自然満喫型



出典：国土交通省GISデータ

1:30,000

